

領域	問題のねらい	問題番号	正答率		
			小問	大問	領域
図形 (40分)	3 縮図や立体図形の相似を通して相似がわかる。	(4)	38.9		
		8	21.5		
		9	37.0		
		10	(1) 56.7 (2) 26.6		
			(1) 74.1		
		11	(2) 52.5 (3) 14.4	43.9	
		12	31.5		
		13	(1) 41.9 (2) 51.9	41.8	44.3
		1	52.3		
		2	36.3		
統計確率 (10分)	1 多数の観察や多数回の試行によって得られた結果について、頻度の傾向を表すのに確率が用いられるなどを知る。	3	21.8	36.8	36.8
			(1) 48.8		
			(2) 61.6		
		3-7	(3) 61.3		
			(4) 38.9		
			(1) 56.7		
		3-10	(2) 26.6	49.0	49.0
集合論理 (5分)	1 演えき的な推論を用いることができる。				

(2) 結果の考察

① 観観

問題別の正答率は上に掲げた通りであるが、領域別の平均正答率は次のようにある。

領域	平均正答率 (%)
数式	43.8
関数	37.8
図形	44.3
確率・統計	36.8
集合・論理	49.0

領域別にみると、確率・統計、関数・領域の正答率が低い。

集合・論理領域については、第一学年の場合と同様に、指導要領の趣旨にのっとり他の四つの領

域の問題解決の場面で診断するようにしたが、平均正答率は五領域の中で最も高い。

確率・統計領域の正答率が最も低く、ついて関数領域となっていること、および集合・論理領域の正答率が高いということが、第一学年にみられる傾向と一致している点に注目する必要がある。

② 領域ごとの考察

ここでは、領域内で特に正答率が低いものや、誤答にある種の傾向・類型が認められるものについて考察を加えることにする。

1 数式

1は、数の集合のもつ構造についての問題である。(3)の正答率は(1), (2)に比して非常に低くなっている。

集合A {0, 2, 4, 6, 8, 10}に属する二つの数a, bに|a - b|を対応させる演算(◎